

会議概要

会議名	令和7年度 第1回はつらつ高齢者部会		
事務局	福祉部高齢者地域包括ケア推進課		
開催年月日	令和7年7月25日(金)		
開催時間	午前10時00分～正午		
開催場所	足立区役所 1203会議室		
出席者	酒井 雅男 部会長	賀川 幸英 委員	佐藤 浩史 委員
	廣島 高志 委員	小浦 梓 委員	山ノ内 聖一 委員
	内山 清 委員	堀 崇樹 委員	半貫 陽子 室長
	神家満 麦 係長	千ヶ崎 純子 係長	佃 美幸 係長
欠席者	山中 崇 副部会長		
会議次第	別紙のとおり		
資料	① 次第 ② 委員名簿 ③ 【協議事項1】「はつらつ教室」の再構築に向けた検討について ④ 【協議事項2】「みんなで元気アップ教室」の再構築に向けた検討について ⑤ 【報告事項1】「あだち脳活ラボ」の利用状況および新たな取組について ⑥ 【報告事項2】令和7年度「高齢者栄養施策推進事業」の取組について ⑦ 【報告事項3】生活支援体制整備事業の取組状況について		
その他			

○富田 それでは、定刻でございますので、ただいまから令和7年度足立区地域包括ケアシステム推進会議第1回はつらつ高齢者部会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会は、高齢者地域包括ケア推進課はつらつ高齢者支援係の富田が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、資料の確認をさせていただきます。まず初めに、「次第 令和7年度足立区地域包括ケアシステム推進会議第1回はつらつ高齢者部会」になります。次に、「はつらつ高齢者部会委員名簿」になります。次に、協議事項1「『はつらつ教室』の再構築に向けた検討について」になります。次に、協議事項2「『みんなで元気アップ教室』の再構築に向けた検討について」になります。次に、報告事項1「『あだち脳活ラボ』の利用状況および新たな取組について」になります。次に、報告事項2「令和7年度『高齢者栄養施策推進事業』の取組について」になります。次に、報告事項3「生活支援体制整備事業の取組状況について」、横書きの資料になります。最後にカラー刷りのリーフレットです。「65歳が始めどき！健康寿命をのばす16のすすめ」になります。

不足等がございましたら事務局にお声がけください。

この会議は、足立区地域包括ケアシステム推進会議はつらつ高齢者部会設置要綱第6条により、委員の過半数の出席により成立いたします。現在、過半数に達しており、この会議が成立いたしますことをご報告いたします。

皆様からの活発なご意見、ご質問を頂

くため、迅速な会議進行にご協力を頂きますようよろしくお願いいたします。

なお、この会議の会議録は公開することとなっております。記録の関係上、ご発言の前にはお名前をお願いいたします。

それでは、初めに酒井部会長から開会のご挨拶をお願いいたします。

○酒井部会長 皆様、おはようございます。まだ8月の声を聞いていないのですが、非常に真夏と言えるような朝の会議になりました。冷房は効いているのですが、どこかタイミングで調整していただけたらと思います。

先ほどお話しがありましたとおり、本日は協議事項、報告事項、非常に多く用意されております。限られた時間ですが、第1回はつらつ高齢者部会、活発なご意見を頂きたいと思っております。

本日は、よろしくお願いいたします。

○富田 酒井部会長、ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。これからの議事進行につきましては、酒井部会長、よろしくお願いいたします。

○酒井部会長 ありがとうございます。それでは、議事を進行してまいりたいと思っております。

次第に従いまして進めてまいります。次第2の「協議事項」としまして、「『はつらつ教室』の再構築に向けた検討について」、まず事務局からご報告をお願いいたします。

○神家満係長 皆様、改めましておはようございます。高齢者地域包括ケア推進課はつらつ高齢者支援係長の神家満と申します。よろしくお願いいたします。

最初に、昨年度の介護予防係が今年度に入りまして、介護予防事業、認知症予

防事業をより一体的に推進するという名の下、組織を再編し、このはつらつ高齢者支援係というものになりました。このはつらつ部会の事務局をやらせていただいておりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

では、私から協議事項1、資料で言いますと1ページ目を御覧ください。こちらについて説明をさせていただきます。なお、この後につきましては着座にて説明をさせていただきますので、よろしく願います。

では、「はつらつ教室」の再構築に向けた検討ということで、お配りした資料のリーフレットの11ページ目を御覧ください。こちらになります。11ページ目です。左側に「はつらつ教室」と書かれております。

こちらを御覧いただきながら、協議事項1、1ページ目の資料のご説明に入らせていただきます。

まず、この「はつらつ教室」についてなのですが、項番1「はつらつ教室の概要」といたしましては、まず「事業の目的」、こちらは地域の高齢者が主体的かつ継続的にフレイル予防に取り組めるよう、具体的な知識や方法を学ぶことで、実践への意欲を高め、日々の行動変容を促していくということを、この事業の目的として位置付けております。

(2)「実施概要」につきましては、主にこの事業、室内型とプール型の2種類ございます。室内型につきましては、フレイル予防に必要な運動・栄養・口腔ケアを学ぶ総合講座で、各回完結型。プール型については、水中ウォーキングを中心とした運動講座となっております。

以下、開催数および時間につきまして

は、記載のとおりなので、この場では割愛させていただきます。

資料、裏面を御覧ください。2ページ目です。こちらのはつらつ教室の項番2「現状」につきましては、まずはこの教室、運動に対する人気が非常に高く、リピーターが多い状況となっております。先ほどの表の記載のとおりなのですが、延べ人数の参加者数は多く見えるのですが、実人数でカウントしますと1割に満たない状況となっております。また、そういった状況から、事業の費用対効果、こちらはまだ十分と言えない状況でございます。また、会場となっている各施設でも、類似の運動の教室ですとか、あとはプール施設につきましては、65歳以上の区民の方であれば既に無料で使えるという状況もございます。

項番3「問題分析」のところなのですが、けれども、まず1つ目が実践の場へのつなぎ方についてです。このはつらつ教室以外の他の事業へのつなぎ方、周知が不十分であったことや、本来実践の場となり得るほかの既存事業、こちらについて参加者のニーズに適していなかった、十分なお案内ができていなかったのではないかと考えております。

2つ目が、事業の周知方法についてです。周知の内容や方法が固定化していたため、既存の参加者には情報が届くのですけれども、それ以外の方について、事業の魅力であったりとか、内容が十分に伝わっていなかったのではないかと我々で考えました。

項番4「課題」といたしましては、本来の事業目的を実現し、かつ費用対効果を高めていくためには、もちろん、従来の実施方法のいい部分は残しつつも、抜本

的な事業形態の見直しも含めて事業を再考していく必要があると考えております。

また一方で、従来、実践の場としてこの事業に参加していただいていた方のフレイル予防活動を継続する場は必要と考えておりますので、事業の再構築と並行して、こちらの受け皿となる場の確保というところもあわせて考えていきたいなと思っております。

それを踏まえまして、項番5「方針案」です。まずは、事務局の案といたしましては、室内型の事業形態の見直しです。

現在、住区センターで好評となっている「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」、こちらを参考にしつつ、さらにこの講座の要素に、栄養・口腔の学びの要素を加えた拡充版講座として対面形式での実施をつくっていけないかと考えております。

あくまで案なのですけれども、開催頻度といたしましては、年2期(前期・後期)1回ずつ。会場は同じ地域学習センターを予定しております。定員は各会場キャパシティが変わりますので、25～40名程度。時間といたしましては、現在90分のところを120分程度を想定しております。

既存事業との違いといたしましては、現在、前期4回、後期4回の多数開催型なのですけれども、やみくもに開催するのではなく、タイミングを捉えた開催。例えば、半年に1回という形の単発開催型に変更したいと考えております。

また、体操プラス座学のカリキュラムから、専門職の方による実演を交えた講座形式もできないかと考えております。

もちろん(ウ)のところ、講座の中では、このはつらつ教室の後の実践の場の紹介時間もきちんと確保した上で、どう

いった事業があるかというのを丁寧に区民の方にご説明できるような時間を確保していきたいと考えております。

また、従来、活動の場を継続する場につきましても、費用対効果の点から、現在各施設にて行われている類似事業への移行も含めて関係所管と調整を進めさせていただいておりますので、そちらについても引き続き検討を行っていききたいと思っております。

はつらつ教室につきましても、前回の部会におきましても、委員の皆様から貴重なご意見を頂いております。我々でも改めてこの事業の目的ですとか、課題をこういう形で整理をさせていただきました。

各関係機関の皆様と一緒に、この地域包括ケアシステム推進会議のはつらつ部会、この場を生かして、事業をよりよいものにブラッシュアップさせていきたいと思っておりますので、ぜひ前向きなご意見を頂けますと幸いです。

どうぞよろしく願いいたします。

○酒井部会長 ありがとうございます。今の報告を受けまして、ご質問等。

○千ヶ崎係長 私から補足で。

○酒井部会長 途中でしたね。

○千ヶ崎係長 住区センターで行っているリハビリのプロから学ぶ筋肉維持講座なのですけれども、昨年からフレイル予防の一環で開始した事業です。今日も山ノ内先生もそうなのですが、あだちPOSネットワークに依頼して、理学療法士、作業療法士が講師になって行っています。

前半は、なぜ運動が大事かという座学になっていまして、後半はあだちPOSネットワークの皆様にご考案いただいたてぬぐい体操を実際に説明して、皆さんに

体験していただきます。前半は座学、後半は実演、体験ということで、やっている事業で、大変好評です。

好評な理由としては、リハビリのプロから学ぶという、そのネーミングもすごく魅力的だったというところと、実演が入る。実際にプロの先生から教えてもらえるというところも、すごくよかったのかなということで、実は今年度10回予定しているのですが、本当は30か所以上希望があって、そこを10か所に調整したということもあるので、このノウハウがはつらつ教室でも生かせればと思っております。

以上です。

○酒井部会長 今、ご報告頂きまして、ご質問等あればお願いしたいと思えます。

○山ノ内委員 丁寧にご説明いただきましてありがとうございます。昨年度、今年度という形で試行的にやらせていただいたのも多かったのですが、数を絞らせてさせていただいたのですけれども。

割とどの講師が行っても同じように説明できる体制みたいなのが少しできてきたので、来年度ということになると思うのですが、なるべく多くの方にとという形を一応考えておりますので、その際の、例えば具体的な会場数とかがあればご遠慮なく言っていただいで、どこまで対応できるかというのはこちらで、今からであればいろいろ対応可能かと思えます。そういうことで考えていければと思えますので、よろしくお願ひいたします。

○酒井部会長 ほかにいかがでしょうか。

○山ノ内委員 この場であれかもしれないのですけれども。例えば、何十回という形になったときの、POSネットというのが任意団体なものですから、特に予算

があるとかではないので、逆に東京都の理学療法士協会というところだと、講師の先生たちの講師料とかそういうところは全部協会で多分賄えると思えます。ですから、そういうことであれば、こちらで来年度の予算、まだ間に合いますので、こちらで来年度の予算立てを組んで、そこから派遣する場合の講師料というところの、今であればまだ来年度つきそうなので、間に合うかなと思えます。

○神家満係長 ありがとうございます。

○山ノ内委員 そうすれば、数を結構増やしてという形で。今回、前回この数が少なかった。区の予算の中で、ぜひやっていただいで、どうしても数が少なかったのですが。今からであれば、そういう対応も理学療法士協会であれば可能かなと思えます。

一応お伝えしておこうかと思ひました。

○神家満係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 よろしいですか。私からの確認なのですけれども、この今、教室のペーパーを見ているのですが、室内型とプール型と出ていまして、室内型について令和7年度の実施の進めているものが、この中央のところにあるものですね。

裏の方針案のところ、室内型の事業形態の見直しについてとあるのですが、これは令和8年度以降のものということですよ。よろしいのですね。

○神家満係長 はい。この方針案は8年度以降にこの事業形態をこういう形に変えられないかというところですよ。

○酒井部会長 大胆な変更になっているのかなと思うのですけれども。これについては、栄養・口腔に関わってくるので、ご意見あるところかなとは思ひのですが、いかがですか。

○小浦委員 少し整理させてほしいのですけれども、そうすると、今年度始めた各回完結型の動画を見て体操してみよう、学んでというのは今年度で終了して、8年度は住区センターのリハビリのプロと学ぶと一体化するのですかね。

○神家満係長 いえ、住区センターでやっているリハビリのプロで学ぶ講座につきましては、運動で完結するものになりますので、我々としてはそれをそのまま地域学習センターでもやるという考えはありません。

あくまで、前回の部会でもご意見を頂いたとおり、はつらつ教室は運動と栄養と口腔の3本柱で、この教室が構成されるべきだというご意見を頂きましたので、その3分野をこの講座の中で学べる、それを各回で完結するという考え方は変わらないのですけれども。講座の中身について動画を使うとか使わないとか、どういう形態でやるかというところは、あえてまだ現在この段階では決まっておきませんので、そこを皆さんと議論させていただきたいなと思っております。

○小浦委員 そうすると、今、住区センターで好評となっているこの講座は、残しつつ、地域学習センターで新たに組み立てる。

○神家満係長 そうです。住区センターに行かれる層と学習センターを普段から利用する層はまた違うと考えていますので。

学習センターをよく利用される層の方にも、住区センターでやられているような講座を行いつつも、全く同じものではなく、差別化を図りたいなと思いますので、口腔・栄養の要素も加えた拡充版の講座として、一つ形がつかれないかなと

思っています。

○小浦委員 データがあるのか分からないのですけれども、今の住区センターの筋肉維持講座は、新規の方の参加率というのはどれぐらいなのでしょう。

○千ヶ崎係長 去年から始めた教室なので、年に1回なのでリピーターはないのですけれども。去年は、6回で233人なので、1回40名弱ぐらいの方に参加いただいている感じになります。

○神家満係長 ぱく増し栄養講座と対になるようにやっているのですよね。

○千ヶ崎係長 ぱく増しは年に2回で、リハビリは全部の住区ではないのですが、年に1回やって、栄養と運動の両方大事だよねということをお伝えしている感じでした。

○小浦委員 栄養講座をしていて、いろいろな区の事業に参加する方って、同じ顔ぶれの方が多いみたいなので、栄養士の話もまた同じ話だなという感想が結構多いのです。

栄養も講義形式にしてしまうと、多分、飽き飽きしてしまうので、私の提案はせっかくこのてぬぐい体操みたいなものしたら、その後みんなでご飯を食べて、できれば口腔の、口のお掃除の仕方とかも、その場で実践をして帰るみたいな。

結局住区センターに行っても、地域学習センターに行ってもまた栄養の話は同じで、口腔の話も同じなのだとなるよりは、教材を、バランスのいいお食事を目の前にして食べながら、楽しい時間を過ごしながら、いつもよりも食べられるよねみたいな体感をしてもらいながら、学んでもらえるみたいなのはどうかと思います。

いつも同じ話みたいなのは、たまに聞

いています。

○神家満係長 電子レンジがあれば、調理実演はできても、施設で食べることができるのかどうか確認が必要なのですけれども。

○小浦委員 配食を適温で衛生的に維持してというのも、どうやってやるのだみたいなのは協議が必要かと思うのですけれども。

○神家満係長 見せるのは多分できると思うのですけれども、食べさせるのは危ないかなと。

それなりにちゃんとした設備がある施設となると、限られてしまうので。

○千ヶ崎係長 食べるとしたら、どこからお弁当を持ってきて食べるとかになるのだと思うのですけれども。そこで作ったものを食べるというのは、難しいかと思うのですが。

また費用の面で、参加費を取るのかとか、いろいろ課題は出てくるのかなと。

○小浦委員 ぱく増し栄養講座をしても、結局大元はいつもの同じような栄養講義をして、実演はするのだけれども、皆さん、実演を見て喜んでくれるけれども。大元の講義は一緒なので、途中退席される方も実際いらっしゃいますし。

○神家満係長 今までの事業を連続開催型にすることで、何度も同じ方が出席される。一方で、ぱく増し栄養講座は1回、1回と単発開催なので、そもそもリピーターという概念がないという、そういう考え方をしております。

住区センターで行う各種事業ですとか、ぱく増し栄養講座も含めてなのですが、それは、通いの場であっていいかなと思うのです。やっぱり学びたいという方が、何度も何度も通うという。ただ、はつら

つ教室は、あくまで入口であって、もっと詳しく知りたい方、もっとやりたい方はここにあります、住区センターで栄養で実演もある、今日の教室よりももっと踏み込んだ内容を学べるのですよというように、そこのつなぎをはつらつ教室で、学習センターでやれたらいいなと思います。

同じ事業をやってしまうと、それは確かにあっちでも聞いた、こっちでも聞いた、何が違うのという話になってしまうのですが。

そこをきちんと我々でご案内というところを、ある意味受託している事業者さん任せになってしまっていたところもあるので、そこは丁寧に事業を組み立てたいなと思っています。

○小浦委員 よろしくお願ひします。

○佐藤委員 最後の話にあった、項目ごとに今まで受託していて、私の記憶で、このはつらつ教室とかは、セントラルでやるやつでしたっけ。

○神家満係長 はつらつ教室は各地域学習センターです。

○佐藤委員 セントラルでやっていたのは違うのですか。

○神家満係長 元気アップ教室とか、ほかの事業でセントラルさんが受託する事業もあります。

○佐藤委員 というふうに、こっちも、僕もちゃんと理解していないし、その中で口腔ケアとかがやられていて、何をやられているのかは分からない。区の方に聞いても分からないというのを、よくないなというところで、そこを見直すということには、賛成なのですけれども。それで、今の話で、ここのはつらつ教室だと、栄養に至っては、ぱく増し教室、僕は

参加していないので分からないのですけれども。その内容とはつらつ教室とは、何がどう違うのかというのは、分からないし。じゃ、ここで口腔ケアといったときに、ここで口腔ケアというのを何をするという話で。このパンフレットで言えば、16ページ、15番のちゅうりっぷ体操というところは、口腔機能低下に近づく部分ではあるのですけれども。細かいこと言うと、このちゅうりっぷ体操というのは足立区が言っている体操で、一般的な体操ではない。それを、区のやり方として全部口腔ケアこれで行くという話も決まっていなくて。というところで、このちゅうりっぷ体操、そこでやればいいじゃんと言ってみると、こっちは衛生部でやっているわけですよ。フレイルはここを見ると、高齢者栄養施策推進担当で、このはつらつ教室はまた違うわけです。

○神家満係長 そうですね。

○佐藤委員 結局、ほかのいろいろなところが栄養士会なら栄養士会、歯科医師会は来ていないけれども、口腔ケアとっていると、そこをトータルでやらないと、個別に来られても結局同じことをこっちはやっている。実際は参加している人が一緒となってしまうと、意味がない。

項目がいっぱいあるのはすごくいいことなのですから。これを見て、この1ページの下、筋力アップ・食事・口腔ケアと、話はすごい分かるし、そうなのだけれども、じゃそれで、まずは興味のあるものをチェックしてみようといったって、はつらつ教室が何なのか、ふれあいがあるかで、とっちらかってしまっているなみたいなのがすごく思うのです。

だから、区民の人も、どこに何をす

ために行けばいいのかというのが、何かはっきりしないのかなと思う。

○神家満係長 そこは、佐藤先生がおっしゃるとおり、この事業ってどこにつながっていくのというところも、ご案内も、今回課題として事業の案内の仕方が不十分だったというところにつながると思うのです。

庁内でも所管が分かれているところは、まさにおっしゃるとおりで、今回、このはつらつ教室、もう1度、組み立て直そうというときには、もちろん高齢者地域包括ケア推進課の中で、私と栄養施策も入っていますが、口腔分野にも、衛生部にも一緒に入ってもらって、この事業、口腔分野は限られた時間の中で、どこまでご説明できるか、何をまず伝えなければいけないのかというところは、一緒にPTを組んで、今、動いていますので。そこは、今までよりかもう少し改善できるかなと思っています。

○佐藤委員 口腔ケアの話でいうと、歯科医師会レベルの話だと、衛生部には歯科衛生士さんがいるのですけれども、福祉部には歯科衛生士さんも、歯科医師ももちろんいないしというところもあるので、そこでまあというところが、もともとの課題で。なので、そこでもし、そういうふうにしていくのであれば、衛生部の歯科衛生士さんのところが、じゃあこの教室のどこまでやれるというところ、どういうところから発展して、そこから歯科医師会に、では歯科医師会にここの講義をお願いしますとかいうふうな形でやれば、スムーズに行くと思うのですけれども。

ここで、例えばこの口腔ケアのことを、歯科医師会に振られても、結局衛生部で

やってという話になってしまうので、もしくはこの事業で、今、栄養の話に変わりますけれども、口腔ケアのところだけいえば、口腔とか口の周りのリハビリとかも含めてやるのであれば、その流れのほうが現実的だと思っています。

○神家満係長 ありがとうございます。先生に言っていただいたとおりで、衛生部とまず庁内で調整して、ご相談させていただきます。

○酒井部会長 非常に素晴らしいご意見が出たなと思います。

確かに、このはつらつ教室は、室内型とプール型とあるのですが、これがスタートから事業の目的と完全にはフィットしていないという部分があって、これを多くの回数をやっていけばやるほど乖離が出るという状況だった。これを改善しなくてはいけないというのは、まさに今の課題で、その課題を解決するのに当たっては、縦割りになっている各部署の様々な事業というものが、関連している歯科衛生士さんの関わる部分とかにしても、単発でバラバラでやっていると効果的にできないし、協力していく側にしても達成感が得られないと頓挫してしまいますので。

ここは工夫して、横断的な体制で、かつ関連の部署と、歯科医師会様とかですね、栄養士会様とも意見交換して、再構築として行っていただきたいなと思います。

はつらつ教室、非常にいいものではあるのですが、目的との間で調整が必要だということで、見直し、再構築をさらに進めて行っていただきたいと思います。

○神家満係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 はつらつ教室のこの部分

はいかがですか。次に行ってよろしいですか。

それでは、次第3に行きたいと思えます。「『みんなで元気アップ教室』の再構築に向けた検討について」、事務局からご報告をお願いしたいと思います。

○神家満係長 引き続き、はつらつ高齢者支援係の神家満よりご説明いたします。

お配りしたパンフレットの9ページと10ページ目を御覧ください。こちら「みんなで元気アップ教室」の再構築に向けた検討ということで、先ほどのはつらつ教室と少し趣旨は似たような内容になっております。

項番1「みんなで元気アップ教室」の概要なのですが、2段構成の事業となっております。まず1つ目が、みんなで元気アップ教室。目的はフレイル予防の知識を学びながらグループワークを通じて親睦を深め、最終的には、現在のところ主にウォーキングの自主グループの創出を目指した教室事業となっております。

もう一つが、元気アップサポーター養成研修という事業でして、こちら当初は地域の生活支援の担い手養成を目指した事業だったのですが、現在としては、グループワークやフレイル予防の基礎講座等を通じて、グループの立ち上げや運営に興味のある方を対象に、グループ活動継続のコツを学んでいただく講座になっております。

開催数ですとか、詳細につきましては、以下、記載のとおりとなっております。

ページをめくっていただきまして、裏面です。項番2「現状」についてなのですが、こちらみんなで元気アップ教室は、募集方法は広報紙と地域包括支援センターによる参加勧誘があるのですが、

現状は、ほとんどが地域包括支援センターによる勧誘の状況となっております。

また、2つ目といたしましては、当時、コロナ禍で始まった事業でして、各事業の中止であったりとか、施設の利用制限、三密を避けた活動の推奨などの理由から、ウォーキングを主としたグループ活動でも当時一定数の参加者はいたのですけれども、こちらも年々減少傾向となっております。

項番3「問題分析」なのですが、みんなが元気アップ教室は、主にウォーキングの自主グループ立ち上げを目的に置いているため、もう既に現状といたしましては、ウォーキングへの関心が低い方、またはいろいろ活動が再開されて既に個人でウォーキングに取り組んでいる方については、ウォーキングの自主グループという理由でお誘いすることにあまり魅力が低い事業になっていると、現場から伺っております。

また、元気アップサポーター養成研修につきましても、地域の担い手となることに対する負担感から、参加を控える傾向にあるという話も伺っております。

そこで、項番4「課題」といたしましては、もちろんウォーキングについては特定の場所や道具を選ばないという利点もありますし、介護予防の視点からの効果もあるのですけれども、ウォーキングに特化しない、とらわれない多様なグループの活動を後押しするようなプログラムに移行していくのが必要なのではないかと考えております。

また、地域の担い手の必要性はもちろんあるのですけれども、過度に住民の方に負担感を強いらぬような事業形態、工夫も必要かなと考えております。

そこで、5「方針案」なのですけれども、まずみんなが元気アップ教室のカリキュラムにつきましては、ウォーキングに特化しないカリキュラム、多様なグループ創出を目指した内容に変更を考えていきたいと思っております。

また、2つの事業の一体性や効率性をふまえて、「元気アップサポーター養成研修」は「みんなが元気アップ教室」に統合するというのも一つの案かなと思っております。生活支援の担い手としての重要性は学んでいただきたいので、カリキュラムの中に残しつつも、それに特化した講座である必要はないのかなと。また、別に必要な、求められている講座があるのであれば、そちらに内容を変更するというのもありかなと考えておりますので、ここで方針案を記載させていただきました。

説明は以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。今の説明を受けまして、ご質問等、よければと思います。

今、説明を受けて思ったのは、確かにサポーター養成研修、講座みたいになると、参加しただけで何か言われるかと、お願いしますねと、負荷が大きかったかなと思いますので、カリキュラムの1つに残せばいいというのは、確かにそうだなと思いますので、その点に関してはよろしいかなとまず思いました。

それから、今のみんなが元気アップ教室の6年度の実績を見ると、実人数というものを見たときとに、先ほどのケースと同じように、効率とかそういったものも考えていかなくちゃいけないのでの変更と思います。

方針案1のところ、多様なグループ

創出を目指した内容に変更するとあるのですけれども、ウォーキングだけではない。それはよく分かるのですが、じゃどのようなグループ創出を目指すのか、何かその方向性みたいのはあるのですか。

○神家満係長 現場の地域包括支援センターの方からは、例えばですけれども、運動に限らず何か目的を持って、お家から出て集まるということも介護予防としての効果があるので、文化的な活動でもいいのではないかと。もしくは、運動にしてもウォーキングだけじゃなくて、ボッチャですとかほかの種目でもいいのではないかと。というご意見は案としては頂いています。

○酒井部会長 限らないということですね。

○神家満係長 そうです。

このみんなで元気アップ教室に関して事業者とも話をしているのですけれども、やはり一長一短で、ウォーキングという1つのゴールがあって、お誘いし、それを前提にカリキュラムをすることでウォーキングの自主グループというところは立ちやすい。一方で、じゃ自分たちの好きな活動をしましよと集まると、皆さん、ベクトルが少しずつずれるので、そこをどう集約していくかというところが、難易度としてはすごく高くなっていくかなと伺っています。

○酒井部会長 今の補足も受けて。

○堀委員 地域包括支援センターで勧誘を行って、講座参加につなげると、そして自主グループの継続支援を行っていくというところで関わらせていただいておりますので、その観点からお話しさせていただきます。

ウォーキングを始めまして、とてもい

いプログラムだったと思うのですけれども。高齢者というのは、1年ごとに1つ年を取るたびに人口は増えていくわけなのですが、現実的には、その方々全てにアプローチできるわけではなくて、やはりウォーキングという言葉が新しさをもって、関心がある人が参加してくれたスタート時点の状況と、数年たった今で言うと、少し飽きが出てくるというか、目新しさがなくなるということは、やはりあるのかなと思っています。

その中で、どういうグループ、多様な活動につないで卒業していけるような講座になっていかなければいけない、どうすればやっていけるかというところが、知恵の絞りどころなのですが。介護予防の教室と言うよりは、ウォーキングですとか、何かそういうタイトルがはっきりしていたほうが、参加動機にも結びつけやすいし、そこが先ほどの理学療法士さんの、リハビリのプロが教えるというように、そういう特徴づけというのがどういうふうにできるかというところは一つ問題になるのかなと思います。

実際には、みんなで元気アップ教室にしてもはつらつ教室についても、その卒業後の活動というところが、どれぐらい案内できるかというところに、1つは焦点になってくると思いますので、講座の中で多様な卒業後の活動の選択肢というのを皆さんにお見せするという意味では、現在、既に活動されている通いの場、それからふれあいサロンというところだろうと、それこそ栄養といいますか、一緒に料理を作るグループから絵を描くグループまで多種多様なグループがありますので、そういうところを参考例として、ご案内しつつ教室活動を行うというよう

な、そんな取り上げ方ができるといいのかなとは思っております。

○神家満係長 ありがとうございます。我々としても、ウォーキングを止めたいということではなく、ウォーキングだけから、ウォーキングも1つの選択肢にできたらいいなと考えていますので、なくすありきでは決してありません。

○内山委員 シルバー人材の内山です。シルバーの活動の中味でいうと、参考意見ぐらいにしかならないと思うのですけれども。シルバー、5地域ありまして、環七と4号と荒川土手、5つあります。その中でエル・ソフィアのある西部のほうなのですけれども。こちらの活動をシルバー全体でもすごくいい活動をしていまして、今のウォーキングで名目でいうとお散歩ウォーキング、お散歩もウォーキングも一緒だと思うのですけれども。そういうのでやっています。何をやるかという、大体は季節なので、お花がきれいということで、桜の時期には桜のあるところに行こう。あと、藤がきれいだと藤があるところとか。これは、足立区内だけではなくて、藤だったら亀戸に行くとか、そういうのまでやっているのですけれども。お話は飛鳥山に行くとかあります。

先日、そういうのを見習いながら、この地域でやったのですけれども。それは、しょうぶ沼公園、あそこで菖蒲を見に行きましょうとことで、あのときには、しょうぶ沼公園から、あとは綾瀬までのスタンプラリーみたいなのがあって、途中でお会いしたのですけれども。

それで、ウォーキングという意味で。目的としては、ウォーキングがあって、そういう季節のお花とか楽しみましょう。

それで終わった後、食事してとかいうことです。その後の口腔はやらないのですけれども、そういうのも含めてやろうかなという形で動いています。

我々の地域では、まだ1回しょうぶ沼でやっただけなのですけれども、トライとして。それを皆さんといろいろ相談させてもらいながら、何かできないかなと今思いました。

あとは、全体の話なのですけれども、こちらの16の「すすめ」とあるこの表紙です。2ページ目のこういうのが、シルバーでは、半分くらい講習させてもらっています。やっているのですけれども、それぞれ頼んでいるのです、いろいろなところに。

区つながりもあるものですから、その辺はできるのですけれども。先ほど、いろいろ意見があったように分かりにくいところもあったりして。コマーシャルの仕方じゃないのですけれども、2つありますよという形で、広報の配布をシルバーでもやっているものですから、そういう意味で、私はある程度関心を持って見るのですけれども。その中で、先日、会議をやったら、あだち脳活ラボの話をしたのですけれども、「えっ、そんなのやっているの」みたいな。「広報でコマーシャルしてるの」みたいなのもあって、やってくれないかななんて話もあったのです。

かなりそういう意味では、バツと出ていると、サーッと見てしまって、目立たないような気がして。もっとも目立つように、シルバーなので、文字大きいほうがいいのですけれども。そういう意味で、バツと出ていると「おお、こういうのもあるのか」というのが分かるような気がするのです、そういう意味でもP

R活動をやっていただければという希望があります。

以上です。

○神家満係長 ありがとうございます。
PR、引き続きがんばります。

堀委員と話していて、ウォーキングと何かというのはすごく重要な要素で、みんなが集まってご飯を食べる。その前にお腹を空かせるために、ちょっと遠いところからスタートして歩こうかというのは、やっているグループもあると聞いていますので、そこはぜひ我々も参考にさせていただきたいなと思います。

ありがとうございます。

○堀委員 シルバー人材センターの仲間同士でつくる活動に、私たちの仲間になっていただく、自主グループとして。そういうのも、そうするとこちらのほうで自主グループの活動の皆さんに紹介している情報とか、交流の機会みたいなものにも参加していただけることもひょっとしたらあるかなと思って、お話を伺いました。

○内山委員 ぜひともよろしく願います。

○神家満係長 基幹地域包括支援センターなので、引き出しいっぱいありますので。

○内山委員 実際に東和でしたけれども、そこの方に来ていただいて、実際にやらせていただいているというか、お話を聞かせてもらいました。ただ、来られた方は分かるのですけれども、来られない方のほうがやはり多いので。

○神家満係長 会員さんで当日。

○内山委員 会員といっても、100人いても5分1来ればいいかなぐらいな。全部で3,000人いても、来るとした

らどうだろうという感じです。200人ぐらいしか来ないので。

○堀委員 要は数だけの問題ではない。もともと就労とか社会貢献というところで成り立っている団体でいらっしゃると思うので、その中のサークルという形で、数の対象ではなく、ぜひ、こちらもこちらにもエネルギーにさせていただくような関係がつかれるといいのかなと思いました。

○内山委員 実際に地域包括支援センターとか、どこにあるのだろうかって、分かっている方はほとんどいないのです。

私、一応、本町が近いので、先日も寄ったのですけれども。そういう活動はしていないというのです、中央本町では。

ですから、ある場所が限られていると思うのですけれども。それがどこかも分からないので、「私、どこ行ったらいいの」みたいな。もうちょっと、自分なりにももう少し調べて、皆さんに配信しようと思っているのですけれども。その辺が「ああ、そうか」と思います。自分は参加しているので分かるのですけれども。ほとんどの人が分かっていないなというのか、周知できていないなというのが反省なのです。その辺もよろしく願います。

○酒井部会長 ありがとうございます。今のお話からすると、広報の難しさというのと、あとハウカツからの参加勧誘がメインだという中で、方針案のこの多様なグループ創出を目指す内容に変更した場合に、どうやって集められるのかという点と、実際に来ていただいた方たちの多様な意見を聞いて、それを次の回にどうやってつなげていけるのかな、継続していけるのかなという難しさはあるので、そのあたり検討しながら、新しい方針案

の下、進めていければと思いました。

○神家満係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 それでは、課題3に行かせていただきます。報告事項3「『あだち脳活ラボ』の利用状況および新たな取組について」事務局から報告をお願いしたいと思います。

○神家満係長 引き続きまして、はつらつ高齢者支援係神家満からご報告いたします。「『あだち脳活ラボ』の利用状況および新たな取組について」です。

項番1なのですけれども、令和7年6月末時点の情報を記載させていただきました。まず、あだち脳活ラボの登録状況（実人数）につきましては、今年度目標3,500人のところ、3,159人、達成率90.3%となっております。

グラフ1に年齢別内訳を記載しておりますが、赤色の点線で囲みがされております65歳以上の方につきましては、約2,000人近くの方にご利用いただいているところでございます。

その横のグラフ2の性別の内訳につきましては、やはり女性が多いのですけれども、3割近くの男性にもご参加いただいておりますので、従来の介護予防事業の男女比参加状況を見ますと、やはりこういったスマートフォンを使った取組について、男性にもご参加いただけるのかなと実感しております。

その下の(2)J-MC I（もの忘れチェック）の利用状況につきましては、今年度目標2,000人の利用を目標としていたところ、現在1,586人、達成率現状79.3%でございます。

グラフ3の年齢別内訳、同じく赤色の点線の部分、65歳以上の方には1,205人ということで、7割強の方にご利用

いただいております。

右側の3段階評価の内訳につきましては、このもの忘れチェックを行ったときに一番上から「ゆうゆう」「グリーゼン」「もうちょっと」、この3段階で評価が出るのですが、この「もうちょっと」と少しもの忘れの傾向があるかもしれない、疑いがあるかもしれないという50歳以上の方にはあだちオレンジチェックという認知症検診のご案内もLINEのプッシュ通知で即時にご案内をかけております。こちらについては、現状、今2名の方が認知症検診にお申し込みをされたと報告を受けております。

続きまして、裏面を御覧ください。(3)動画配信の視聴者数です。今年度の目標1,000人のところ、918人の方にご利用いただきました。ジャンル別で見ますと、やはり運動系が視聴の内容としては多い傾向にございます。グラフ6につきましては、総視聴回数の推移で、毎月、月を追うごとに増えていっている状況でございます。

続きまして、項番2「『あだち脳活ラボ』を活用した新たな取組について」ご報告いたします。こちら脳活ラボのコンテンツを使えば使うほどポイントがたまるのですけれども。このポイントが取得できる二次元コードを協力施設に常設で設置し、高齢者の通いの場として外出・運動・社会参加の習慣化を後押しすることを目的に、新たな取組を開始いたします。

こちらのポスターとポップを作りまして、ご協力いただいている施設様にこちら飾らせていただいて、窓口と受付に二次元コードを印字したポップを置かせていただきます。脳活ラボに登録いただいた方が、ここの二次元コードを読み取る

だけで、20ポイント、プレゼントするような仕組みになっています。1日1回です。ただ、各施設1回なので、例えばまた違うところに行ったら20ポイントとつくのですけれども。ポイントを楽しみに利用されている方も非常に多いので、これをきっかけにお家から出て、外出、歩く習慣を持っていただきたいなと思って、この企画を考えております。

(2) 協力施設なのですけれども、地域学習センター14か所、住区センター51か所、あとは区内の浴場施設にもご協力いただきまして23か所、8月上旬から設置開始する予定です。

取得ポイントについては、先ほどお伝えしたとおり、20ポイントなのですが、この取得したポイントはQUOカードペイが当たる脳活ラボのガラガラ抽選であったり、プロフィール画像に登録されたご自身のキャラクターのカスタマイズに活用することが可能です。

3番「今後の方針」としましては、先ほども周知についてご指摘ありましたけれども、さらに多くの方にご利用いただけるように多様な媒体を使って周知していきたいと思っております。また、8月上旬の広報の裏面にあだち脳活ラボの特集記事を組む予定で動いておりますので、まもなく皆様のお手元に届くと思います。あとシルバーさんにつきましては、全会員さん、約3,000人の方に脳活ラボのリーフレットをお配りするように事務局さんと調整をさせていただいておりますので、会員さんにも情報が直接届けられるかなと思っておりますので、その点のところもよろしくお願いいたします。

私からの説明は、以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。

今の報告を受けまして、皆さん、ご意見を頂ければと思います。

総視聴回数が非常に増えてきていて、頭打ちになっていないというのが非常にうれしい報告であったかなと思います。

グラフの見方を確認したいのですけれども、グラフ4、3段階評価内訳というのが表の下の右側にあるのですけれども。

「ゆうゆう」とありまして、その後「グレーゾーン」とあって「もうちょっと」というのがあるのですけれども。「もうちょっと」と「グレーゾーン」ではどちらが段階的にももの忘れ度が大きいという理解なのか。

○神家満係長 「もうちょっと」がもの忘れの疑いが強いことになります。

○酒井部会長 「グレーゾーン」とあわせて注意していきましょうという部分と。

○神家満係長 「グレーゾーン」となりますと、日によって「ゆうゆう」に入ったりとか、その人の体調によって少しバラツキが出ますので、ここではすぐに認知症検診のご案内ということはしないのですけれども。「もうちょっと」の方については、地域包括支援センターにご相談できますよとか、そういったご案内もあわせて送っておりますので。

○酒井部会長 それから、ポイントをためる施設が増えるというのは、非常によいと思います。それから、区内の浴場施設もこれからの協力、スタートということですから、また増やしていけるいいきっかけになるのかなと考えます。

脳活ラボに関してはよろしいですか。

○佐藤委員 このもの忘れチェックの利用状況というのは延べ人数ですか。

○神家満係長 実人数です。

○佐藤委員 リポートしている人も。

○神家満係長 1にカウントしています。

○佐藤委員 リpeatしたら2じゃなくて。

○神家満係長 最新のものをここで反映しています。

○佐藤委員 最新。

○神家満係長 2回やった場合、2回目がこちらに反映するようにしています。

○佐藤委員 延べではなくて。

○神家満係長 延べではないです。

○佐藤委員 延べではない。

○神家満係長 実人数です。

○佐藤委員 繰り返しやっている人と、1回目でやっている人のデータみたいなのあるのですか。

○神家満係長 データはあるのですけれども、この場ですぐにはちょっと。

○佐藤委員 今知りたいというよりも、要は定期的にもの忘れチェックとかは、やらないと脳活ラボをしている意味がないから、そこの部分で、例えばイベントとかでこれインストールしてやってくださいと言うだけだと、それで1回、終わってしまうと思うので、もの忘れチェックとかは、定期的にやっているかどうかというのも促すようにしたほうがいいかなということと、あと視聴に関しても、ただちょこっと流れるよりも、例えば筋トレとかやりながら見るのであれば、多分繰り返し見ていると思うので、その層を使っているということは実際、分かると思うのですけれども、一回だけだと、ただのぞいているだけで終わっている可能性があるのでは、そこら辺も含めて追っていただけたほうがいいのかなと思いました。

○神家満係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 このあたりどうですか。

○神家満係長 もの忘れチェックの定期的な促しというのは、こちらからプッシュ配信ができますので、少し利用がされていない方に対してのアプローチというのはできると思います。

動画も、確かに1回見た人と、10回、20回見た人を同じカウントでいいのかなというのは、もちろんありますので、今後、蓄積するデータを見ながら、利用頻度をどういう頻度で見ている方を、視聴しているかという定義も今後、詰めていかなければならないなと思います。

○佐藤委員 それこそもの忘れチェックを何回もすれば20ポイントとはいわず、5ポイントとかすれば、確かにやるかもしれない。

○神家満係長 もの忘れチェックもポイント化するということですね。

現状もの忘れチェックはポイントつけていないのですけれども、確かに利用を促すという意味では、それもありません。

○酒井部会長 そこにポイントをつける意味はありますね。

○神家満係長 利用を促すという意味では確かにそうです。

○廣島委員 動画の回数、増えてはいるのですけれども、登録人数から考えるとあまり回数が、期待しているよりはっていないのかなと思うので。また数か月とか見ながらだとは思いますが、現状では、少ないという印象ですか。

○神家満係長 我々の中では、想定よりは見てくださっているなど。新しくこういうスマートフォンを使った事業を初めて振り切ったので、もう少し抵抗感を、周知の面ですとか、もっと必要かなと思っていただけたのですけれども、口コミで協

力いただいたりとか。先日もシルバーさんのプレ体験にご参加いただいた方が、ほかの会員さんにご案内していただいているという、そういう地域の広がりというところも、我々の思っていた以上に広がりを見せているかなと思っています。

ただ、十分ではないと思っていますので。

○広島委員 通所でいらっしゃる方とかは、なかなか外への外出の機会が少なかったりとかというのはあると思うのですが、けれども。例えばパンフレットとか何かPDFか何かで頂いて、配布とかすると、登録ということで行くと少し底上げになるかなとは感じたのですが、けれども。

○神家満係長 そこはぜひ。

○広島委員 利用されるか、ちょっとあれですが、けれども。

○神家満係長 もちろんです。

○広島委員 ただ、通所部会、確かに会員利用者が60、70人ぐらいでしたっけ。たしかそれぐらいあって、ざっくりいくと1,000人以上は、多分利用者というのはいると思うので、そこに対して、何かしら宣伝かけて、10%でもあればいいのかなって。

○神家満係長 ぜひ、そこは、広島委員から。

○広島委員 PDFか何か頂ければ。

○神家満係長 現物、今、うれしいことに在庫不足になっている状況で、8月の頭に納品される予定なのですが、用意ができましたらご相談させていただきます。

○広島委員 もちろんです。

○神家満係長 実は6月の地域包括ケアシステム推進会議のとき、終わった後に訪問看護の羽田委員からお声がけいた

きまして、部会の中で配るから100部ほど欲しいということで、その場でお渡しして配ったりもしています。

もしご協力いただけたところがあれば。

○内山委員 これのことですか。

○神家満係長 そうです。ご協力いただけたところがございましたら、ぜひぜひお声がけいただければと思います。

○広島委員 なかなか難しいのが、各事業所に渡しに行くというのが、難しいので。できればデータのほうが、速さでいくすぐにメールで流せるので。

○神家満係長 それであれば今日にでも送れますので。

○広島委員 じゃ送ります。

○神家満係長 ありがとうございます。

○内山委員 今の動画の話なのですが、けれども。長いのでなかなかスマホで見ているというのができないのです。ちょっと見て、僕は途中で止めてしまうのが何度もあったのですが、けれども。長いから家でゆっくり見るのならいいのですが、けれども。スマホってやっぱり携帯なので、家に置いてずっと見るということはありません。

人によると思うのですが、私なんかは、全く家でじっと見ることはないので、外で動きながらやるというのが、使い道です。人によって違うと思うのですが、けれども。それだと、見られないのです。あとは、つながるまでに、すぐにパッと入ると入らないのとあるので、入らないなともう止めてしまうとかというのがあるのです。

その辺、今いろいろどんどん変えられていると聞いていますけれども。動画を増やすのだったら、もう少し工夫が必要かな、時間的な面とか。

○神家満係長　そうですね。

まず、動画の時間でいいますと、現在は、3つの動画をパッケージで、30分から40分程度の動画を週に2回、更新して皆様に直接お送りしているのですけれども。

ゆくゆくは改修して、それをバラにした状態で、何が何分くらいかかる動画なのかというの、再生する前に分かるようにして、選べるように。3分ぐらいだったら今、見てしまおうかなとか、これ10分だったら後にしようとか、そういうのを選べるようなメニューも作りたいなと思っています。

あとは皆さん、いろいろな動画の利用、シチュエーションがあると思うのですけれども。我々でも、管理画面を見させていただくと、毎朝、午前2時とかにやっている方ですか、この人はこれが生活のリズムなんだとか、そういう時間帯に介護予防事業って絶対、我々では展開できないので、そういういろいろな方のニーズにスポットと入れているところもあるのだなと思ったので、ぜひいろいろな方に使っていただきたいと思います。

○酒井部会長　非常に貴重なご意見で、動画の長さって、視聴しようとするときには大きなハードルです。YouTube動画を見ても、大体10分過ぎると見たくない人がいますから、やはり忙しい中で、せっかくアクセスして30分だと途中で挫折する可能性が高いので、そういった意味では工夫していけるものが見えたということで、お願いしたいと思います。

次に行ってみたいと思います。また、最後にご意見などは受けたいと思います。

それでは、次第の3報告事項に入りま

して「令和7年度『高齢者栄養施策推進事業』の取組について」を事務局からご報告お願いしたいと思います。

○千ヶ崎係長　高齢者栄養施策推進担当の管理栄養士の千ヶ崎と申します。よろしく申し上げます。

私からは、「令和7年度『高齢者栄養施策推進事業』の取組について」ご報告をさせていただきます。

栄養施策は、大きく2つぱく増し事業と食べてフレイル予防事業というのがございます。両方とも、たんぱく質をしっかり摂取することがフレイル予防につながることを啓発する事業になっております。

まず、ぱく増し事業についてなのですが、(1)今年度、広報で年3回、ぱく増しのコラムを掲載できることになりました。1回目は8月25日号で、夏場は食欲が落ちて、体重が減ったりする時期なので、夏場でも食べやすいレシピとか、夏は体重減に注意しましょうということ促すコラムになっております。年3回予定しております。あわせて、1月25日号は、2月がぱく増し月間ということで、また特集号の予定をしておるところです。

(2)として、今、LINEとかAメールで簡単レシピということで、ベジタベのレシピとかおいしい給食レシピは定期的に配信をしているのですけれども。ぜひ登録をいただくとありがたいですが、今度、LINE等でぱく増しレシピも配信をしていこうかなと考えております。あわせて、あだち脳活ラボでもレシピをプッシュ型で配信をして、これは動画ではなくて、年齢と、クックパッドに飛んでつくり方が分かるというものなのです

が、そちらも配信をしていこうかなと考えています。

(3) が2月のぱく増し月間なのですが、昨年まではアンケートに答えるとプレゼントがもらえるという企画を2年間、やっておったのですけれども。

今年度は、例えば区民の方の「ぱく増し」の工夫を紹介してもらおうとかということで、より実践につながる企画を考えていけたらと思っています。

また、スーパー、コンビニ、食品メーカー等とコラボして、簡単で安価なレシピとかの情報発信も今年は進めていきたいと考えています。

2つ目が食べてフレイル予防事業です。先ほどから、何回か議題に上がっていました住区センターでのぱく増し栄養講座、こちら調理実践を交えたぱく増し講座を、令和5年度から実施しております。昨年は69回実施して、今年度は10回増えて、79回実施予定です。

また、「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」についても、去年から始めていまして、去年は6回、今年度は10回ということで、先ほど山ノ内委員からもご提案いただきまして、来年度はもう少し回数を増やして、栄養と運動、両方やることでフレイル予防になりますよということ伝えていければと思っています。

また、これも山ノ内委員のご協力の賜物なのですけれども、てぬぐい体操については、あだちPOSネットワーク様にご監修いただきまして、昨年考案して、昨年度はリーフレットを作成しました。今年度は動画を作成しようと考えております。来週、POSの方にもご協力いただいて、動画を撮影する予定になっています。先ほどから話に出ている動画時間

については、10分以内でスマホで見られるようなところも配慮しながら進めていきたいと思っています。

同じく、動画であだち、SNS、脳活ラボでも発信をしていきたいと考えています。

あわせて、もう一つ個別支援というのも行っています。栄養士が低栄養のリスクのある方に、訪問して問診を行ってありまして、今年度は135人が対象で、5月から訪問しながら食事のアドバイスとか、握力を測ったりとか、そんなことを進めております。

裏面に行きまして、「今後の方針」です。先ほどの話と重なるのですが、ぱく増し月間につきましては、今までは認知度を上げる、取りあえずぱく増しを知ってもらう取組だったのですが、今年度はワンランク上げて、ぱく増しの実践を促す取組にしていきたいと考えています。また、物価高騰がありますので、何とか安価でたんぱく質がしっかり摂れるというところをAメールとか月間を通じて、配信、ご紹介していきたいと考えています。

ぱく増しとてぬぐい体操をあわせて行うことで、運動と栄養の相乗効果を図って、さらなるフレイル予防を取り組んでいきたいなと考えております。

以上になります。

○酒井部会長 私からお聞きしたい部分がありまして、今の「今後の方針」のところで、認知度を上げる取組から実践を促す取組に変更するということなのですが、実践を促す取組というのは、どのような取組ですか。

○千ヶ崎係長 実践を促すというのは、今、やっている区民の方のぱく増しの工夫をアンケートに「私、こんなことやっ

ています」と書いていただき、ホームページとかで、区民の方の「ぱく増し、こんなことやってます」みたいにご紹介できるといいなと考えております。

○酒井部会長 ありがとうございます。今のご説明を受けてご意見を頂ければと思います。

私から、ちょっとズレるのですがけれども、足立区の施設にいろいろなキッチン、ぱく増しのものとかベジタベでもいいのですがけれども、そういうものを提供するキッチンのある場所ってあるのですか。

○千ヶ崎係長 少ないと聞いています。

○酒井部会長 私、知っているのはギャラクシティの中にとんがりキッチンって、ピラミッドみたいな形のキッチンがあって、あそこの利用が少なく、今、困っている。今、課題になっている部分なのです。非常に日が当たって、暑くなる部分ですがけれども、当然、クーラーもありますし、ちゃんとしたキッチンであそこが使われていないのが非常に悩ましい部分なのですが、このぱく増し事業とかで、あそこで例えば実際にこういうぱく増しの工夫みたいなものを、全てそろっていますから、そういうところでちゃんとした作る資格を持っている方、栄養士の方とか、やっていただくと本当に写真や動画にも撮れますし、実際に試食もしていただけるかと思えますし。そういうのを使いながら、単なる情報だけではなく、見る体験、聞く体験、匂いの体験も含めてそういうものができるぱく増し事業もあってもいいのかなと思いますので、そういった点も実践という意味で検討していただければと思います。

○千ヶ崎係長 ありがとうございます。実は今年度も何回かモデル的に調理実習

をして、その後食べて交流するみたいな、調理実習型のぱく増し講座をやる予定で、まだ準備段階だったのでここには書けなかったのですが、考えています。

実演で見てもらうのはいいのですがけれども、実際に自分で作って、こんな簡単なのだというところと、みんなで食べて交流できるというのは、すごく貴重な場だと思いますので、そんなことも次のステップとしては考えていければと思っています。

ご提案、ありがとうございます。

○酒井部会長 もう一つ、会場が都度変わるというのは、宣伝効果といたらないか、人を次呼ぶときの障害になりますから、やはり1か所で、そこでやるとなると、みんなも口伝えで宣伝していてももらえますから、そういった意味で拠点を作って、そこでぱく増しの実演があるという形で行けるといいようには思いません。

ほかいかがでしょうか。ぱく増しに関して。

○内山委員 ぱく増しという、たんぱく質なのですけれども、私、こういう絵を見ていてもこういうのしか食べていないのです。あまりお菓子って食べないので。

それで、どうやってもっと増やすのかなと考えてしまうほうなのです。たんぱく質ってこれだというのが分からないとか、平均的に食べればいいということなのだと思うのですがけれども。逆に、摂っていない人が何を食べているのか分からないです、自分で。

○千ヶ崎係長 結構いらっしゃるのです。1日2食だったりとか、この時期だとそうめんだけとか、簡単に済ませてしまう方とかは、そこに、サラダチキンでも載

せたらとか、温泉卵でも載っけたらとか、そんなちょっとしたことで、たんぱく質が摂れますよというアドバイスは、させてもらっています。

あと講座の中では、目安量、手ばかりとって、手の上で載っける、大体卵1個、豆腐1個、肉・魚、これぐらいですよ、ざっくりとした目安量というのをお伝えして言うようにしています。

○内山委員 今のを聞いて分かったのもあるのですけれども。例えば、夏場なんか、それこそそうめんだけとかあるかもしれません。そういうときに、特化して何か言うともっと分かりやすいかなと、今、思いました。

確かに、私もおそうめんだけで、あとちょこちょこ食べます。天ぷらを載せたりじゃなくて何かあるかもしれませんけれども、何かそういうときにもこうですよみたいなのがあったら分かりやすいかなと思います。

○千ヶ崎係長 8月25日号が、広報の特集号なのですけれども、原稿が間に合えば。

○神家満係長 脳活ラボでも流します。

○千ヶ崎係長 そうですね。脳活ラボの方へ。単品で済ましてしまう方というのが本当に多いです。あとは食欲がなくて食べないという方もいらっしゃるのですが、本当にしっかり食べられている方となかなか食べられない方と同じ65歳以上でも、いろいろな方がいらっしゃると思うので、その人に合ったぱく増しをご紹介していけたらと。

○内山委員 今、途中で2食しか食べていない人がいるとかね。1食しか食べていない人というのもいるのです。実際に、3食、食べたほうが良いというのは分か

るのですけれども、もともと3食食べていなかったということですよ。そこから3食、食べさせるようにしたという歴史があるじゃないですか。そんなので、なぜ3食が良いのかというのも、私は分かっていないのですけれども。

○千ヶ崎係長 夜、寝ている間に、糖質とかは使われてしまっているのです、午前中のエネルギーには朝、しっかり食べることがすごく大事にはなります。

○内山委員 朝。

○千ヶ崎係長 若い世代から、朝食を抜いて、そのままずっと過ごしてしまう方もいるので、3食しっかり食べるというのは、もっともっと遡って、若いところからきちんと伝えて、何で大切なのかというところも含めて伝えていけるといいのだと。それこそ連携じゃないのですけれども。衛生部とも連携しながら、できればと思います。

○酒井部会長 ほかがご意見いかがですか。

○広島委員 ぱく増しのところで、レシピの配信というのがあって、箇条書きか何かで、こういう感じ。

○千ヶ崎係長 見たことありますか。

○広島委員 ないのでけれども。個人的な意見なのですけれども、私も料理が好きで、レシピだと作らなくて、動画だと結構作る。一緒に作っている感じで。なので、例えば脳活ラボにそれこそ。

○千ヶ崎係長 脳活ラボ、動画が良いですよ。

○広島委員 料理の動画とかがあると、見る方もいるのかなというのが率直な意見です。

○神家満係長 ホームページでは、動画になっていないのでしたっけ。

○千ヶ崎係長 ベジタベが一部、10個

ぐらい動画を作って、ホームページにアップしているはあるのですけれども。編集作業とか大変なので、あまりクオリティを求めない動画であれば、上げられるし、確かにそのほうが分かりやすい。普段料理をしない方はもしかしたらそのほうがいいし。

○広島委員 動画で包丁の切り方とかも覚えたので。

○酒井部会長 私も結構YouTubeを見て、レシピなんかは見ないのが、作っている様子のYouTubeを結構見るのですけれども、そうすると自分も作ってみようかなと。そういった意味では、本当に数分の動画でいいと思うのです。長くしようと思うと、見ないし。短いのをいっぱい単発で飛ばしてもいいのかなと思います。

○千ヶ崎係長 今LINEで流すと、作り方がすごい量になってしまうので、多分、なかなかあれは見る人、見づらいかと。

○酒井部会長 LINE動画。

○広島委員 脳活ラボ、動画のところにあると何かいいかな。

○千ヶ崎係長 いろいろ提案を頂きました。

○神家満係長 ただ、やはりあだち脳活ラボなので、足立の特色は出したいなと考えています。数ある動画コンテンツの中で、それを無限に増やすことは経費的なコストの部分で、難しいのですが、今、すごく好評を頂いているてぬぐい体操の動画をせっかく作るので、それを脳活ラボの一つのコンテンツに、配信ではなく、足立区オリジナル動画ボックスみたいな箱を作って、そこにてぬぐい体操とか、そういう動画を幾つか格納できないかと

いう検討もしています。技術的にはできると思うのですけれども、いろいろ調整は必要になりますので。そこで料理のメニューもというのですけれども。料理のメニューを考えると、多分2、3個では済まないと思うので、じゃどういう掲載の仕方がいいのかというのは、ぜひ考えたいです。

動画は、確かに文字よりも力があると思いますので。

○千ヶ崎係長 楽しいですよ、きっと、見ていて。

○内山委員 すごくいい意見を言っていたありがとうございます。シルバーで「いちょうぴあ」というのをやっていて、月1の広報誌なのですけれども。そこに必ず料理のコーナーがあるのです。それを作って、材料何とかがって料理の方法とあるのですけれども。それを何かしらないけれども、動画じゃないけど、やると、シルバーメンバーも見るとな気がします。今、読んでいるのですけれども、やっぱり動画がいいという。それでしたら、実際にその動画。逆に、シルバーの中でも考えてもいいのかもしれないけれども。そういう中に、配信方法、我々がないので、何とか動画を配信していただくようなのがあれば、見る人が多くなるかなと思います。

○小浦委員 動画配信に関しては、千住にある福祉系の大学の、よく千住のハウカツのケアネットとか、講師で来てくださる先生がいらっしやって、そのゼミ生さんが高齢者向けのレシピ動画の作成をされています。いろいろなところでいろいろな人が同じような動画をわざわざ作るよりは、せっかく区内の取組なので、協働とかしてもらって、活用し合ってみ

るといいのじゃないかなと。

○千ヶ崎係長 誰でも見られるのですか。帝京科学大学のことですか。

○小浦委員 そうです。

○酒井部会長 リンクすればいいですものね。

○小浦委員 学生さんもすごくやりがいになると思うし。

○千ヶ崎係長 福祉系の大学だし。

○酒井部会長 地域連携が。

○千ヶ崎係長 確認してみます。ありがとうございます。

○山ノ内委員 逆に、料理しない人、男性、圧倒的に多いと思うので、そういう人たちがたんぱく質を摂る手軽なものって、これを例えばつまみとか、そういうのもあると。料理好きな人の割合と考えたら、多分しない人間がかなり多いと思うので。

○千ヶ崎係長 すごく課題なところなので。

○山ノ内委員 自分でやってみると、1食20グラム、摂っていないのです。本当に1日60グラム摂っているかというのと、1週間やってみたのですけれども、僕でも摂っていないです。実際食べているようで、グラム数でやると意外と行っていないんです。ここにあるものを食べていてもという形になるので、これも結構。「ぱく増し」をやりながら、てぬぐいを書いてあるので、そういうのを見ながらやっていたのですけれども、意外と摂っていないので、プラス1品みたいな。例えばそうめんのときに、プラス1品これとかいうのがあると、先ほどおっしゃったようにいいかなと思うのです。

そこでまた改めて調理とかというよりは、手軽に摂れるものとか。

そうすると、特に男性陣はそういうのは参考になるかなと思うのです。

○千ヶ崎係長 本当に豆腐とか納豆とか卵でもいいですし、例えばコンビニとかで、今、豆腐のバーとかも売っていたりとか。

○山ノ内委員 コンビニで太めのソーセージとかありますけれども。

○千ヶ崎係長 そうですね。そういうのもいいですよみたいな。今度月間ではコンビニさんとも連携したいなと思っているので、コンビニに入ってちょっとぱく増しのような啓発ができたりとか。

○山ノ内委員 手軽に手に入るたんぱく質みたいな。

○千ヶ崎係長 スーパーに行かなくても、コンビニでちょっと足せばいいとかそういうことですね。

すごいっばい意見をいただいて。

○酒井部会長 有意義な情報なり意見が様々出ましたので、うまく生かしていただければと思います。

それでは、本日の最後の報告事項に入ります。「生活支援体制整備事業の取組状況について」、堀委員から報告をお願いしたいと思います。

○堀委員 それでは、報告事項3の資料を御覧くださいませ。生活支援体制整備事業の取組状況についてご報告をさせていただきます。

まず、1ページ目でございますけれども、生活支援体制整備事業、主に介護予防と身近な生活空間の中での生活支援、助け合いのようなことです。そういった活動を応援していこうということで、整備されております。

ハウカツの圏域を第二層と呼び、区のレベルを第一層と呼んで、包括支援セン

ターに地域支え合い推進員という職員を役割配置いたしまして、事業に取り組んでいます。

取り組むに当たっては、包括支援センターごとに開催されるあんしん連絡会で協議しながら事業に取り組んでいくというプロセスになっております。なお、このあんしん連絡会を第二層協議体と呼び習わして取り組んでいるところでございます。

ということで、基幹地域包括支援センターは、足立区域の第一層のところに位置づくものとして、私どものセンターでは第一層支え合い推進員ということで、包括支援センターの取組をバックアップするという位置づけでございます。

3 ページ目に移りますけれども、各包括支援センターの推進員の業務内容というのが、委託契約の中に入っている項目でございます。全部で7つございまして、地域資源の把握、自主グループの創出・継続支援、3番目が担い手となる人材への活動の場の案内。これは、今日お話の中で出ている元気アップ教室ですとか、各種の区の事業へのつなぎ・紹介ということを含む形でございます。

4番がそれと連動するのですけれども、それぞれの方のニーズに応じた参加の場ですとか、それからサービスといったものを案内していくという業務でございます。

5番目に、冒頭で申し上げました第二層協議体・絆のあんしんネットワーク連絡会を開催し、その場で6番、地域課題の検討を行いながら、資源創出に取り組んでいくということでございます。

最後に7番目で、ブロック単位、全部で25のハウカツありますけれども、そ

れを区内5つのブロックに割っておりますので、そのブロック単位でハウカツ同士が情報交換をしながら事業の実効性を高めていこうということで取り組んでおります。

次のページが、昨年度から今年度にかけておおよそどんなことに検討して取り組んでいるかということの見取り図でございます。

一番左側に、一層と二層と区分けしてございます。実はこのはつらつ高齢者部会は、第一層協議体に位置づけられておりますので、この会議体を目指して、各包括支援センター、二層の協議体と検討を積み重ねながら、日々取り組んでいるという会議体の構成になっております。

令和6年度は地域課題の抽出としていろいろと検討してまいりましたけれども、担い手の不足ですとか、活動場所の不足ということが、これは長年そうなのですが、特に指摘されたということになっております。

その中で、今、区レベルにおいては、本日も協議事項の中にございました元気アップ教室の見直し等について検討いただいているということでございます。

あわせて、活動場所の不足、それからもう一つ出てきたのは共食の場の支援というテーマなのですが、こういったことについても、支援策をぜひご検討いただきたいということでご報告をさせていただいたところでございます。

二層でも優先的に取り組むべき地域課題、この3つについて、既に令和6年度内から取組を始めておまして、特に担い手の不足、場所の不足という2点について、各ハウカツでは一体どんなふうに取り組んでいるのかということの実例を

寄せていただく調査を行って、ヒントをまとめたところがございます。担い手については269事例、場所については136事例が集められまして、今現在、担い手の部分、269事例をまとめて取組のヒントを、今年度に入りまして職員の研修などで共有して実践に役立てていただこうという取組をいたしました。

次のページが、地域課題の抽出の具体的なところがございます。担い手の不足については、やはり元気アップ教室の参加者が少ない。ウォーキングに特化した仕組みに限界を感じるなどの意見が出ておりました。

また、このプログラムをどうにかすればいいということだけで、なかなか太刀打ちできない構造的な問題もありまして、就労期間が今延びています。前の部会でもお話しさせていただいたのですが、元気高齢者が増えました、人口減少社会ですという中で、その気があれば何歳までも働けるという時代に入ってきている中で、地域活動に参加する方々というところのリクルートがなかなか難しくなっている状況であるということが出てきたところです。

また、活動場所の不足については、特にこの区役所周り、梅島駅あたりの周辺、それから千住のエリアあたりに地域活動で使える場所というのが少ないのが、エリアで出てくるとなっています。

なので、そういった空き家、空き店舗の活用や町会会館などを活動拠点として利用できるようなことについて、サポートする制度が少ないのではないかとか、空き家バンクのようなものがあるとよいという意見が出ておりました。

それから3番目に、共食の場の支援で

ございます。これは、運動習慣、運動を介護予防の入り口にすること多いのですが、そして欠かせないものなわけなのですが、運動習慣が全くない人もいるから、共食の場を復活したいとか、それから栄養面と閉じこもり、孤立というところの課題にわたって、共食の場が必要だと思っているというような意見が出ていたところございました。

次のページに移りまして、昨年度から行いました担い手の発掘に関する取組について269事例を整理した10のヒントを抽出いたしました。

これについては、次のページ、包括支援センターの研修の中で共有をしたところがございます。評価としては、とても生かせる・生かせるを合わせて100%になりまして、こうやって項目だけ10個並べてみても、何のことやらということだと思えますけれども。この中で寄せられた事例を共有しながら包括支援センターの中で、勉強を行ったというところがございます。

また、隣の北区とかそれから遠くは立川市のあたりまで、この取組に賛同していたほかの4自治体の推進員も招いて、一緒に勉強するという機会を行いました。

令和7年度の、今年度一層ではどんな取組をしているかというところについて、列記したもの、一覧にしたものも掲載させていただきました。協議の場は、委託事項をそのままという感じで、記載しているとおりの会議体がございます。それから、包括支援のところでは、職員研修や相談会というものを行っています。これは、包括支援センター単位で私どもの基幹センターと企画会議を行うという相談会を開いておりまして、右側の写真は

その様子です。右側にエリアハウカツの職員さん4人、来所いただいて、左側に基幹事業化支援センターのブロック担当の職員ということで、10枠で昨年度始めた事業でございます。

それから、資源開発の部分では、通いの場の交流会の開催のほか、今年度は共食の場づくり情報交換会という、一緒に作って食べる会の活動をもっと広げていけないかということで、情報交換会を開催しようということにしております。

長くなって恐縮です。一番最後です。生活支援の取組ということも、生活支援体制整備事業では、介護予防とあわせてもう一つ大きなトピックになっていまして、身近な地域での支え合いという活動を広げていこうということで、幾つかの事例が出てきております。

例えば、特技を生かした生活支援ということで、男性の方が協力員なのですが、傘を直してあげたりとか、簡単なエアコンの掃除みたいなことをしてあげたりという活動を社会福祉協議会の有償家事援助の仕組みと連動させながら、包括支援センターで取り組んだという事例がございます。

それから、送迎支援です。実際に要介護となりますと、通所介護とかデイサービスなどの利用ということもできるのですが、その手前の方の集まれる場所ということで、足立区では認知症カフェという事業をハウカツエリアで行っています。ただ、そこに当事者が来るというのが、難しいということが実際にはありまして、そこら辺の部分を送迎について協力してくれる住民の方と一緒に取り組んでいこうというような、送迎支援の活動も行われています。

また、最後に食料支援、買い物支援ということで、高齢者の独居世帯の方が多いいですか。一時的に食料困難に陥ることがあります。これは、若い人の食料困難は別の問題でございまして、子育て世代、シングル世帯とかで食料支援が必要な場合というのは、ずっとその後ある一定のところまで長い支援が必要なのですけれども。高齢者一人暮らしの場合は、例えば、生活保護につながるべきだったけれども、ちょうどその、退職してお金がなくなったみたいなところから、年金がうまくコントロールできなくて、一時的に支援が必要とかですね。あるいは、年金ももらっているのだけれども、本人に認知症状が出てしまったために、これまたどこにどういうふうに保管しているかわからない。今、手元には食べ物がないみたいなことで、一時的に必要な状況というのが出てきます。そういったことを地域ケア会議などで、相談しながらみんな食材を集めてみよという取組を包括支援センターも参加して行ったりという取組が出てきております。

この辺は、各ハウカツの地域事情と課題の検討に合わせて行われるものなので、一律にこれをやってくださいというものではないのですが、こういった自主的な活動というものも、基幹センターとしてはぜひ今年度も力を入れて応援していきたいと考えているところでございます。

ということで、以上、報告させていただきました。

○酒井部会長 ありがとうございます。実践、取組から抽出されたものなので、非常に分かりやすくかつ課題がよく見えたと思います。

第一層、第二層の説明もありまして、

このはつらつ高齢者支援部会の今日の審議ともオーバーラップしてくるというのもよく分かったなというところでした。

今のご報告についてご質問、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思いません。

かなり詳細な報告で、すごくぐっとくるような内容が多くて、現場で悩んでいる姿が見えるし、この部会で何やっていかなくはないのかというのも見えてくる部分なのかなと思いますので、この部会で検討していければと思います。

○堀委員 1つ足らせていただいてもよろしいですか。地域課題として一番の担い手不足というのがあるかと思いますが、これは地域活動で100%満たされている方をリクルートしようというのは、今の時代に合わない気がしておりますので。これは介護の事業者の方々ですとか、それからシルバー人材センターに登録されている方々と連携をしながら、お互いつながりながら地域づくりをしていくのかなと考えているのです。なので、この元気アップの参加者を増やすためにという、単にそういうことではなしに、今日、参加されている委員の皆様の足元の活動と結びついていくという方策をこれからぜひご相談させていただきたいと思っております。

○酒井部会長 ありがとうございます。ぐっときて言葉が出ないという感じではあるのですけれども。

○山ノ内委員 今のお話を聞いてですけれども、担い手の考えている年齢層というのは、それによってかなり違うのかなと思っておりますけれども。

ただ、この前シルバー人材センターとちょっとお話ししたときに、シルバー人

材センター自体が年齢層がどんどん上がっている話を聞いて、昔は60台が中心だったのが、今、70台後半が主だという。

この担い手を考えるときに、どこの年代を担い手にというところのイメージがないと、具体的に話を進めるときに、例えば元気アップのところにも、多分これセントラルさんがやっていたりすると思うのですけれども。対象者をどういうところに持っていくのかなって、今さっき言ったように、結構、その辺が一番難しくなっているような気がします。

実際、上がっているのですか。

○内山委員 平均が78歳とかになっていて、それこそまさにこういう包括ケアシステムに参加されるというのは、シルバーではかなり要るんじゃないかなと思うのです。

先ほど言った担い手、そういう意味では、60台の女性もいますし、そういう方たちがいいのかなと思いますけれども、年齢的には。

○堀委員 事例の中で、一番最後に写真3つを入れたうちの一番左側です。この男性は民生委員さんで、そして社会福祉協議会のあいあいサービスセンターの協力員として行ったのですが、実はこのホウカツ「一ツ家」の協力員でもいらっしゃるのです。ですので、あわせてシルバー人材センターの会員でもあるということも、やる気のある人にとっては、あっていいのではないかと考えておまして、これはどこで活動する人を奪い合うみたいな話ではなくて、活動の可能性を広げるという方向で連携したいと思うのです。

○内山委員 シルバーのルールとしては、仕事があるのを、逆に言えば、取っては

いけないというルールがあるのです。邪魔しない形でやるということ。あとはたまたま就業開拓委員会というのがあって、その委員をやっているのですけれども、そういう意味ではお話を伺うというか、そのメンバーと話してもらおうというのはいいかなと思います。

実際に我々仕事を取りに行っているのは確かなのです。その中で、堀委員の中での仕事というのもシルバーに回していただくような形というのはありがたいことだと思います。

○山ノ内委員 適切かどうかは分かりませんが、例えば、こういう通いの場というところを、仕事として行くのとボランティアとして行くのは全然違うのです。単に担い手というのをボランティアでやってもらうのか、今、おっしゃったように仕事として、もし担い手としてやるのかという、そこは大きな差かなと思っています。

ですから、単にこういう、何となくこういう仕事って何かボランティア的イメージがすごく強いのですけれども。これは、就労場所の一つとして、担い手を持っていくというのは、この後どうしても必要な段階になっていくのではないかなと感じているところです。

○内山委員 おっしゃるとおりで、もともとはボランティアという形が一番出ているのです、前面には。ですけれども、現実には会員さんたちは、収入目的というのは絶対にあって、ボランティアだけに入っているという人はまれなのです。

気持ちはボランティアというのはあるのですけれども、やっぱり有償ボランティアというのがあって、その辺がシルバーの中でも、皆さんが同じ気持ちかとい

うと、そうじゃないです。友だちづくりとかいろいろな理由がありますけれども、やはりそれぞれの方、有償ボランティアということでやっているというのが現実だと思います。

ボランティアはボランティアでほかにあるんです。

○山ノ内委員 並行して考えていけないかといけないかなとは。

○内山委員 そうですね。

○酒井部会長 この生活支援体制を考える場合には、担い手を限らない、広げていくという発想でいかざるを得ないと思いますから、有償を目的の方は、当然いってよいし、そういったあたりで、実際、どこまで取り込んでいくかという点を今後の課題にしていければと思うんです。

それでは、今日の報告事項はここまでとしまして、ご意見、ほかに本日の協議事項、報告事項でございますか。今、相当出たという感じ。

それでは、今後の高齢者部会の日程については、事務局からご説明、ご報告いただければと思います。

○神家満係長 はつらつ高齢者支援係の神家満からご説明いたします。

次第を御覧ください。次第の項番4番「その他」のところですが、今後のはつらつ高齢者部会の日程の案をここでご提示させていただきます。今年度、本日含めて3回の開催を予定しておりまして、次回第2回は、令和7年11月19日(水)、同じく午前10時からを予定しております。

また、その後、第3回につきましては、令和8年2月9日(月)のこちらは午後2時からを予定しております。

会場につきましては、いずれも足立区

役所南館12階、同じフロアなのですが、
れども1204会議室ということで、こ
の隣の会議室になる予定でございます。

日程につきましては、現状の案という
ことで、また近くなりましたらご案内を
させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○酒井部会長 ありがとうございます。
今日の案件は以上ということになります
ので、今日は活発なご意見が出まして、
まだいっぱい出てくるのかなというところ
ではあるのですが、この部会も今日だ
けではなく、事務局にもまた委員様同士
の意見交換を独自に続けていただければ
と思います。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

○富田 酒井部会長、ありがとうございます。
委員の皆様におかれましても、
長時間にわたり様々なご意見、ご質問を
頂きましてありがとうございます。

最後に、事務連絡がございます。委員
の皆様で、本日お車でおいでの方につき
ましては、お帰りの際に事務局にお申し
つけください。駐車券をお渡しいたしま
す。

それでは、これにて令和7年度第1回
はつらつ高齢者部会を終了とさせていた
だきます。

本日はありがとうございました。